



手術室がリニューアルしました！

研究所附属病院 周術期管理センター長 桜間 教文
ダイアライシスアクセスセンター長



2022年6月に2階の手術室（血液浄化療法センター入口の真向かい）が43年ぶりに新しくなりました。

手術室の歴史をみると、初代手術室は透析医療のすべてが行えるように設計されていました。腎移植の際には、腎移植ドナーとレシピエントがならんで手術できるようになっており、無影灯も2セットありましたが、残念ながら様々な要因で腎移植は実現しませんでした。

1996年に外科が新設され、平松聡先生が尾道市民病院から消化器外科医として赴任し、岡山大学消化管外科と連携し、消化器外科手術を中心に手術が行われてきましたが、専門性を問う時代の流れとともに、消化器癌手術は基幹病院で行われるようになっていきました。

一方、透析外科関係では人工血管移植を除く自己動静脈内シャント手術や動脈表在化手術が院内患者中心に行われてきましたが、2003年には野間和広医師が赴任し、2005年に野間医師の後任として私が赴任しました。2007



▲新しくなった手術室

年にバスキュラーアクセス専門の鶴川豊世武医師が非常勤として赴任し、デザインに裏付けされた革新的な人工血管移植技術を学びました。

その後、2013年にダイアライシスアクセスセンターが設立され、バスキュラーアクセス修復困難症例が岡山県内のみならず、中四国から数多く紹介されるようになりました。年間250例を超えるバスキュラーアクセス手術がありますが、9割は修復術となっており、修復困難症例の最後の砦として腎移植を除くすべてのバスキュラーアクセス関連手術を行っています。

今回の改装では手術を止めないようにするために、仮手術室を1階のレントゲン室の横に設置し、4か月かけて改装を進めました。手術室スタッフは休日返上で引っ越しを1日で行い、適正評価もスピーディーに済ませることができたため、幸い1日も手術を止めずに済みました。

新しい手術室では患者さんの緊張や不安を和らげるため、手術室に新たに大口径の窓を取り付け、自然を感じることができるようになりました。また、手術中に気がまぎれるようにYouTubeで好きなジャンルの音楽を聴くことができるようにしています。

手術室が新しくなったことで、感染リスクを低減し、明るい無影灯のもと、安心して手術をうけていただける環境が整いました。

新任 役職者研修を開催

～テーマは「役職者の5つのタスク」～

創和会本部 人事部長 亀山 愛

6月21日（火）、しげい病院から9名、研究所附属病院から6名が参加して、2022年度第2回新任役職者研修が開催されました。講師は中小企業診断士の佐藤翔先生（株式会社日本経営）、研修テーマは「役職者の5つのタスク」であり、組織における役職者の基本的な役割、心構えを理解し、自分自身を見つめなおすこと、明日から取り組む課題を明らかにすることを目的としました。



▲毎回テーマにそった講義やグループワークを行います

■しげい病院 看護部 副主任 佐野 薫子

今回で2回目の新任役職者研修になります。今回の演習課題は20枚のA4用紙を用いて最も高いペーパータワーを競って作成するというものでしたが、グループでの協働作業を通じて、大きな気づきがありました。

1. みんなで意見を出し合い、方針を決定する。
2. 声掛け、コミュニケーションをしっかりとって、情報共有をする。
3. その方針に向かって皆で協力し、実践する。
4. 楽しみながら行う。
5. 途中で改善策を出して修正する。
6. スタッフの個性を知り適材適所で役割分担する。

以上のことが、この演習の中で活かされています。

した。これらは病棟業務の効率化をはかり、より良い病棟運営をしていく上で、大切なことだと分かりました。

演習の実践や講義を通して、自分も一役職者としてより良い病棟運営に参加できるようになりたいと思いました。そのために新任者の私は、まず自分からスタッフへ声掛けや挨拶を行い、スタッフの良いところを発見し本人へフィードバックし、信頼関係を築いていくことから始めようと思っています。

最後になりましたが、このような学びの機会をくださいましたことに感謝いたします。この学びを現場に活かしていけるよう努力して参ります。ありがとうございました。

■研究所附属病院 小児療育部 副主任 梅原 彩

研修の中で、特に印象に残ったことはグループワークです。残念ながら私のチームはミッション達成に至りませんでした。取り組みの中でチームとして協働するために大切なことに気づかされました。

その一つが、メンバーの心理的安全性を確保することの重要性です。「話を真摯に聞いてもらえる」「失敗やスキル不足を責められない」「成果ではなく存在を肯定される」ことが、チームの一員として目標に向けて貢献したいという前向きな気持ちを引き出すことを体感しました。この経験は、

職場での自分の普段のコミュニケーションについて見直す良いきっかけにもなりました。

また、置かれた立場は違うものの、参加者の皆さんと色々なことを話し、新しい職責に対する思いなどを共有する機会を得たことは、非常に励みとなりました。

本年度より、新任役職者研修は1年をかけて実施されます。研修で学んだことを普段の業務に活かしつつ、自分自身の成長につなげていきたいです。貴重な機会をくださり、ありがとうございました。

この人紹介 !!

～私の履歴書～

渡邊 紗希先生をご紹介します！
4月から研究所附属病院に勤務されています。

前の病院ではどんな診療を？

広島県の呉共済病院で初期研修を行った後、東京女子医科大学腎臓内科に入局して後期研修を開始しました。1年間は大学内で腎臓内科一般病棟、血液透析の研修を受けました。

2年目からは大学医局からの派遣で埼玉県の戸田中央総合病院という急性期病院で、腎臓内科外来、病棟管理、血液透析などに携わらせていただきました。数は少ないですが腎生検や腹膜透析管理も経験させていただきました。

4年目で第1子を出産・育休後は都内の関川病院という慢性期病院に勤務しました。急性期病院と慢性期病院とどちらも経験させていただきましたが、それぞれで必要とされる知識や役割が違い勉強になることがたくさんありました。

後期研修終了後は地元の広島県近くで勤務しようと思っていたので、大学を退局してこちらに戻りました。

研究所附属病院の印象はどうか？

育休で約2年間病院勤務の現場を離れていたの
で仕事に復帰することに不安がありましたが、コ
メディカルの方がとても優しく自分が気づかなか
ったことにも沢山アドバイスをいただけて毎日
頼りにさせていただいております。

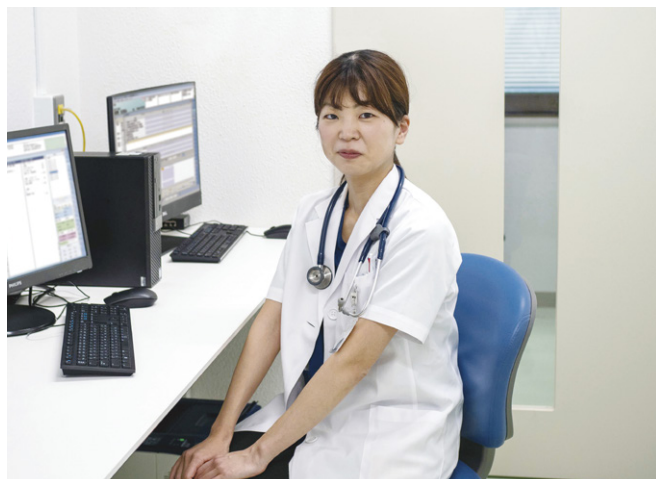
職場の先生方は個性的な先生が多い印象です



が、どの先生方も仕事が確実に早く、尊敬する点が多いです。

休日の過ごし方について

3歳と1歳の息子がいて乗り物が好きなので、駅に新幹線や電車を見に行ったり、線路の踏切を眺めたりしています。涼しい季節はいろんな公園に行っています。岡山県はまだまだめぐっていない場所がたくさんあるので、これから楽しみです。



研究所附属病院での抱負について教えてください

まだまだ自分に何ができるのかははっきり分かりませんが、一般内科診療の知識を広げることと、腎臓・透析の分野でなにか特化したものを吸収していければいいなと思います。

また、これまでは医局の派遣の関係で、患者さんを短い期間でしか診療することができなかった
ので、研究所附属病院ではなるべく長い経過で患者さんを見て今後信頼関係を築いていければと思
います。受け持った患者さんにとって最善の医療
が提供できるよう心がけて参りたいと思います。

スタッフコールを更新しました

しげい病院 IT 推進・情報管理室 係長補佐 渡邊 翔子



▲多職種に対応する新しい「スタッフコール」

6月16日、しげい病院「Change & Challenge」の一つ、スタッフコール（多職種で対応するイメージを反映できるよう、呼称を「ナースコール」から「スタッフコール」に変更）の更新工事が完了しました。この更新によって下記のような効果が期待されています。

・看護業務の見える化

コールした患者さんや時間、回数、種類などの情報のグラフ化・集計が可能となる。

・患者さんの見守り強化

ベッド内蔵センサーやカメラを用いることで、患者さん・スタッフ双方の負担軽減とより安全で効率的な見守りが可能となる。

・職員異動時の負担軽減

全病棟で統一した病床マップ・呼出音・設定を採用することで、異動時の環境変化への対応が容易となる。

・事務作業の負担軽減

電子カルテとの連携により、ネームプレート作成・移動業務の廃止が可能となる。

スタッフコールは患者さんとスタッフを繋ぐ大切な仕組みであり、更新には正確な情報・課題の共有、柔軟なスケジュール調整が必須です。そこで事務部長をリーダーとして、看護部長、副看護部長、医療安全管理室課長、各病棟課長、総務課係長、IT 推進・情報管理室システム担当、導入業

者による定例会を隔週で行いました。

万全の体制で臨みましたが、今回はコロナとの闘いでもありました。患者の受入状況に応じたスケジュール変更に加えて、既存ナースコールの故障悪化など計画通りに進まない局面に何度も遭遇しました。しかし、森上看護部長を始めとする定例会メンバーの推進力と、内藤事務部長や吉田係長が培った経験の力によって、壁を突破しプロジェクトを完遂することができました。最後に、様々な場面で柔軟に対応いただいた病棟スタッフの皆さんに感謝申し上げます。

今後、スタッフコールを皮切りに、ネットワーク更新、スマホ導入へとIT化が進んでいきます。引き続きのご協力をよろしくお願いいたします。



▲隔週での定例会

運転前には アルコールチェックを！

安全運転管理者です！

しげい病院 医療支援部 係長 俣野 圭一



▲運転前後には必ずチェック！

2021年11月10日「道路交通法施行規則の一部を改正する内閣府令」が公布され、2022年4月1日から運転前のアルコールチェックが義務化

されました。

今回の改正によって、一定台数以上の白ナンバー車を保有・業務使用している事業所等にアル

コールチェックの義務が課せられました。

しがい病院では4月1日から「運転前後の運転者に対し、目視等で酒気帯びの有無を確認」「アルコールチェックした内容の記録を1年間保存すること」に従い、アルコール検査記録簿への記入を開始しました。

10月1日からは「運転前後の運転者に対し、アルコール検知器を用いて酒気帯びの有無を確認」「アルコール検知器を常時有効に保持すること」も追加になり、本格的にアルコール検知器の使用が義務化されます。

現在、データをパソコン管理できるアルコール検知器の入手を検討中ですが、全国34万の事業所が一斉に発注を行っているので10月までに機器の手配が難しい状況です。そのため、簡易版を事前入手し、7月から使用開始しました。

使用方法は、ボタンを押してフーッと息を吹き

かけるだけで、数値と共に赤・黄・緑の信号灯でアルコールの有無が検知されます。晩酌するスタッフが試しに朝一で行ってみましたが、無事アルコールは



▲簡易版の検知器

検知されませんでした。（だからと言って飲みすぎは要注意ですけどね！）

簡易版は定期的に車両の利用が多い5部署へ配布しましたが、土日祝日に直行直帰をする職員もいるため機器が不足、追加発注も検討中です。

今後も安全運転管理者として交通法令の遵守や交通事故の防止を図ると共に、職員への安全運転に対する意識の向上の指導に取り組んでまいりたいと思います。

お知らせ

全職員が利用するグループウェア

～2022年秋稼働に向けて、導入作業中!!～

グループウェアとは、職員間のコミュニケーションを円滑にし、業務の効率化を推進するためのソフトウェアです。現在も創和会内にグループウェアは稼働していますが、ユーザーは役職者など全職員の2割程に限定され、インターネット網を使うシステムのため、個人情報の管理に課題がありました。

これらの課題を解決すべく導入作業中のグループウェア「ガルーン」。電子カルテ系ネットワークを使用するので、個人情報の流失リスクを軽減した上で情報の共有ができます。また、電子カルテパソコンは院内に多数配置しているので、全職員がユーザーになることが可能になりました。

職員の皆さんは、稼働後は毎日「ガルーン」にログインして、未読のメッセージ（メールの事）や掲示板をチェックすることで、簡単に必要な情報を把握（発信も）できます。また、上司の会議予定等をスケジュールで確認できるので、報連相する時間を把握できるように

なります。他にも、ワークフロー機能を使った出張願いや物品購入稟議の申請・承認など、仕事の仕方が大きく変わりそうです。

2022年秋から段階的に使える機能を拡張していく予定で、現在、両病院のシステム担当者と本部で、導入準備作業を行っておりますので、ご期待の上でしばらくお待ちください。



今年の緑のカーテン

しげい病院 医療支援部 係長 吉田 和明

Eco と CO₂ 排出量削減目的にて、今年は5月9日より緑のカーテンを設置開始しました。今回は発熱外来用屋外診察室横を新しく追加した11か所への設置となりました。

今年も緑のカーテンを工務係（安藤さん・長谷川さん）の2人が管理してくれていますので、大きな問題もなく生育しています。毎日変わる成長と生い茂る葉で、屋内に差し込む夏の日差しがやさしい光に変わり、少しでも温度上昇の抑制に効果があればと思います。

今年は例年よりも早い梅雨明け宣言が行われ、とても短い梅雨となりました。特に6月の下旬に



▲工務係の安藤さんと長谷川さんが今年も管理

は8月上旬並みの気温となり、高い気温が続く暑い夏のスタートを切りました。全国的にも電気使用量が増加し電力不足が心配されています。この暑さでは、エアコンは必要不可欠ですが、電力不足となっていますので無理のない節電は必要だと思います。

去年に負けない緑のカーテンを目指し、省エネと少しでも建物の遮熱の一助となるように取り組んでいきたいと思います。



5月に植えた時は
こんなに小さな葉っぱでしたが、
どんどん大きく成長中!!



ちょっとアブない生き物は、 とってもおもしろい 生き物でした！

重井薬用植物園 園長 片岡 博行

7月3日（日）10～12時に、特別企画の自然観察会「ちょっとアブない？しぜんかんさつ」を開催しました。トゲがあったり、触るとかぶれたり、実は毒があったり、という植物や、ハチやヘビなどの適切な対処をするにはある程度の知識と注意が必要となる「ちょっとアブない」動植物を知ってもらい、野外活動の準備の参考にしてもらえれば、ということで、今回、試験的に企画した観察会です。

当日は開会のあいさつを行った後、まずはハチアレルギーがある植物園ボランティアの方を講師にお願いし、ハチのアナフィラキシーショックの体験談。アレルギー専門医の検査・診断が必要な「エピペン」という自己注射キットを処方してもらって、常に携帯していることなどを教えていただきました。

その後は私（片岡）から、マムシやヤマカガシなどの毒ヘビ、マダニ、ヒロヘリアオイラガやチャドクガなどの毒のある毛虫などについて写真で紹介をしたのち、植物園内を歩いて、ヤマウルシやヤマハゼ、センニンソウなどのかぶれる可能性がある植物や、タラノキやクスドイゲといったトゲのある樹木を観察しました。ちなみにウルシの仲間には日本では漆塗りに使われるものの、どちらかというと嫌われ者扱いですが、ナッツ類として人気のカシューナッツとピスタチオは、実はどちらもウルシ科の樹木の種子であることを紹介したところ、これには結構驚かれた方が多かったようです。その他には、山菜として親しまれている「ワラビ」も、実は有毒植物であることなどを紹介し



▲植物園のボランティアの方にハチアレルギーの体験談を話してもらいました。

ました。ちなみにワラビの毒成分は、調理の下処理として行われる「灰汁抜き」の段階でほぼ無毒化されるので、通常は問題になりません。

また、参加していた子供さんがゴマダラカミキリを捕まえてくれたので、カミキリムシは鋭いアゴを持っていて、かまれると「ちょっとアブない」こと、カミキリムシやクワガタ、大型のトンボなど、かまれたりはさまれたりすると痛い思いをするので、昆虫採集の際には、種類ごとに適切な持ち方を知っておくことが大切であることを解説しました（もっとも、カミキリムシを捕まえてくれた子供さんは持ち方も完璧でした！）。

2時間程度の観察会では、植物園内にある「ちょっとアブない」生き物をすべて紹介することはできませんし、全部を完全に記憶することも難しいと思いますので、身近な自然の中に普通に「ちょっとアブない」生き物から身を守り、思いきり野外活動を楽しむためには、長袖、長ズボン、登山靴やゴム長靴の着用など、しっかりとした服装をしておくことが重要であることを今回のまとめとしました。

今回初めての企画のため、紹介・解説する植物の種類、観察コースなど、進行の仕方に反省点も多くありましたが、受付開始から10日ほどで定員（30名）に達するなど、人気企画になりそうな手ごたえもあります。企画内容を練り直し、来年度以降も機会があれば再度開催したいと考えています。



▲ちょっと凶悪すぎる？クスノキ科の樹木、クスドイゲのトゲ。



▲背の低いヤマウルシの株。手入れされた明るい場所ほど普通に生えています。



▲マムシは草むらでじっとしていることが多いので、気づかずにかまれることが多くあります。



▲樹液にはカブトムシだけでなくスズメバチの仲間もよく来ているので、注意が必要です。

催し物案内

重井薬用植物園

植物園を楽しむ会

「朝涼に秋の声を楽しむ」

日時：8月28日（日）

8：00～10：00

会場：重井薬用植物園

編集後記

●ふとコンクリートに穴をあけたくなったので振動ドリルドライバーを新規購入しました。手元にある10.8Vの振動ドリルではコンクリート平板に穴をあけるのに全然進まなくて苦労した経験から、大は小を兼ねると自分に言い聞かせて36V機をポチる。パワーイズ ジャスティス。10.8はメルカリで処分だ。さて、手元に届いた36は大きめのドライヤーくらいのサイズ感にダンベル並みの重さでウワツと思ったものの使っているうちになれるだろう。いや、小はメルカリだ。慣れるしかない。試しに緩んでいた椅子のネジでも締めてみよう。回るドライバー。一瞬でなめるネジ。回るドライバー。回らないネジ。誰だよ、大は小を兼ねるとか言ったやつ。あ、俺か。パワー！（MK）

●先日、飼っているハムスターがケージから脱走していました。気付いたのは夜中。帰宅したときにはケージの中にいるのを確認していたので、まだ脱走してからそこまで時間は経っていないはずだと思い急いで探しました。すぐ見つけることができましたが、見つけた場所は扉が閉まっていたはずの隣の部屋。ケージもロックしていたはずなので、不思議なことだらけでした。今回は運よくすぐに発見できましたが、次に同じことが起こってもすぐに見つけてあげられるように部屋を片付けようと思えました。いい機会なので、ずっとしたいと思っていた模様替えと大掃除を次の休みから徐々に始めていこうと思います。（KM）



医療法人 創和会

生きることの尊さと健康であることの幸せを、すべての人と共に

しげい病院

〒710-0051 倉敷市幸町2-30

TEL086(422)3655 FAX086(421)1991

岡山しげい訪問看護ステーション

岡山しげい居宅介護支援事業所

〒710-0202 岡山市南区山田2117

TEL086(282)4300 FAX086(282)4301

重井医学研究所附属病院

〒707-0202 岡山市南区山田2117

TEL086(282)5311 FAX086(282)5345

倉敷しげい訪問看護ステーション

倉敷しげい居宅介護支援事業所

〒710-0051 倉敷市幸町2-30

TEL086(422)8111 FAX086(421)1991

重井薬用植物園

〒710-0007 倉敷市浅原20

TEL086(423)2396

重井医学研究所

〒707-0202 岡山市南区山田2117

TEL086(282)3113 FAX086(282)3115

倉敷昆虫館

〒710-0051 倉敷市幸町2-30

TEL086(422)8207

EAP相談室コラム

「あきらめることの健康的な意味」

ジャパン EAP システムズ EAP 相談室

ストレスとは乗り越えるもの？

近年の“レジリエンス”概念に代表されるように、仕事や対人関係から生じるストレス状況下であったとしても精神的な健康を保ち、適切な対応ができる能力をどのように育むかについて注目が集まっています。具体的には、ユーモア、問題解決能力、感情調整能力、楽観性、自己理解などの能力が当てはまり、それらを高めることで心理的なストレス反応を低下させたり、睡眠の質を高めたりする効果があると指摘されています。ストレス状況下での適切な対処が注目される一方で、最新の心理学研究では「あきらめること」の健康的側面が注目されています。

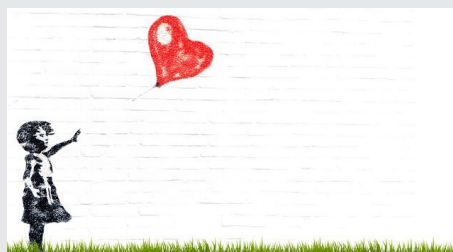
ストレスをあきらめるとは？

「失敗しても、何とかやっていける気がする」「うまくいかなくても何かしら意味があると思う」「うまくいかないことがあっても仕方ないと思う」など、少し楽観性を含みつつもあきらめていくことを「適応的諦観（ていかん）」と呼びます。これは、ネガティブな出来事をそのまま受け入れつつも、そこにこだわらない前向きな姿勢と定義され、適応的諦観が強いことは精神的な健康度を高めると明らかになりました。

従来、あきらめることは問題を放置するニュアンスが強く、抑うつ感などを高めるものとして否定的に捉えられてきました。しかし現実的に考えれば、様々なストレスに対してすべて積極的に扱い、対処していくことは困難です。そのため「適応的諦観」という視点から、心の引っ掛かりを優しく手放していくことも現代において大切なセルフケアの一つなのではないでしょうか。

実践へのポイント

- ・「今の時点では仕方がない」「大変だけど何とかなる」と、大変さや困難さに向き合い、受け入れようとしてみる
- ・失敗の原因や背景を“批判的に”探らず、失敗に向き合い、考えようとする自分自身を優しい気持ちでほめる
- ・心の引っ掛かりが手放しにくいときには、家族・友だち、同僚・上司など誰かに話すことをお勧めします。職場で話しにくいことはEAP 相談室へお気軽にご相談ください。



S. Hermann & F. Richter による Pixabay からの画像

参考文献：渡邊洋一郎（2018）実践！ストレスマネジメント ストレスの解決・解消と職場のコミュニケーション 公益財団法人 日本生産性本部 生産性労働情報センター
菅沼慎一郎・中野美奈・下山晴彦（2018）精神的健康における適応的諦観の意義と機能 心理学研究, 89, 229-239.

※医療法人創和会は職員の心の相談窓口として、ジャパン EAP システムズと契約しています。相談はお気軽に、電話やメールで。